

# 研究紀要

第20集

**働くための環境設定とシステム作成の試み**

2014年1月

弘前大学教育学部附属特別支援学校

# はじめに

校長 松本敏治

本研究紀要の主たるテーマは、「働くための環境設定とシステム作成の試み」というものです。

このような研究テーマを取り上げることになった経過を少し説明させていただきます。

近年、附属学校の存在意義が問われています。私たち職員が附属学校の存在を考える時、自己満足に陥ってはならないと考えています。周囲の方々から「弘前大学附属特別支援学校は〇〇が良いね。」「〇〇という良い教育活動をしているね」と言ってもらうことが必要です。私たちは、私たちの存在そして活動を、周囲の人に認めてもらうだけのものを発信しているかどうか自問した結果、必ずしも十分とは言えないと考えました。私たちがいることを大学や地域で認めてもらうこと、研究の発信をより積極的に行っていくことが重要だと。

昨年、私たちは大学構内において奉仕活動を始めました。教育学部の教職員や学生にとって附属特別支援学校の存在はそれなりに身近なものです。一方で、人文学部や理工学部等の教職員や学生の意識にはほとんど上がることがないでしょう。場合によってはその存在さえ知らないかもしれません。そこで、私たちがキャンパス内で奉仕活動を行うことで、大学というコミュニティの一員として認めてもらうこと、これを目指しました。本校教職員と生徒たちは「附属特別支援学校 清掃中」というピンクと白のノボリを先頭に大学に向かいました。学年や能力に応じて、小石拾いや草抜き、ベンチのペンキ塗り、教育学部内の清掃などを行いました。

特別支援学校の生徒たちは「支援」される対象と考えられています。しかし、彼らは学習を通して、地域の一員として貢献することもできるはずで、働きが認められ、感謝される。私たちが地域に一步を踏み出すことで、そんな体験ができるのではないかと考えました。事実、作業中に見知らぬ教職員や学生から多くの温かい励ましの声をもらいました。「ご苦労様」「ありがとう」「頑張ってるね」。

研究紀要に関しまして、昨年度は大きな決断をいたしました。例年の公刊を中止したことです。それは、数年間の研究をまとめようと試みたもので、原稿の大部分はできあがっていましたが、教員の様々な試みが含まれた貴重な情報でしたが、残念なことに、読み手に発信する力を持っていないと判断しました。その後本校では、研究はどう行おうか、研究はどう発信すべきの議論が行われました。研究部の教員たちは、全国の特別支援学校の紀要を調査し、その研究方法について分析を行いました。その結果、私たちは自分たちの身近な活動をテーマに沿って分かりやすく発信できる研究を目指すこととしました。そう考えたとき、現在行っている大学構内での奉仕活動がヒントとなり、「働くための環境設定とシステム作成の試み」というテーマが生まれました。

本テーマの研究は始まったばかりです。まだまだ不十分な点や修正を要する部分があります。私たちは、この取り組みや研究についてご意見をいただけることを望んでいます。

# 目 次

はじめに	1
研究の概要	3
研究主題	3
I 研究主題について	3
II 研究目的	4
III 研究の方法	5
IV 今年度の研究	6
引用, 参考文献	6
各学部の研究	7
小学部の研究	7
中学部の研究	25
高等部の研究	41
研究のまとめ	51
資料 知的障害者への接客指導のためのマニュアル作成について	55
その他の研究	67
おわりに	97
研究同人	98

# お わ り に

副校長 森 山 隆

今回の公開研究発表会は、本校としては4年ぶりに開催する外部に向けた研究会であり、また10数年前からは外部からの発表者を交えた「フォーラム」という形で行ってききましたので、「公開研究発表会」という名称で開催するのは久しぶりとなります。これまで研究会を実施しない年度も、研究集録として取り組みをまとめ公刊して来ましたが、昨年度末は公刊を断念する形になりました。附属学校の存在意義が問われている今日、自分たちの取り組みをより積極的に外部へ発信しなければならないという使命感を強くし、今回の公開研究発表会に向けて取り組んできました。

今回の研究を進めるにあたり、何をどのように進めたらよいか多くの迷いはありましたが、昨年度より始めた大学構内での奉仕活動等をヒントに、本校としてのキャリア教育推進の足がかりとして、「働く」をテーマにした研究を進めることにしました。同時に今年度、文部科学省の緊急スクールカウンセラー等派遣事業を実施する機会を得て、障害者の就労支援に深く関わっていらっしゃる横河電機株式会社の箕輪優子氏を外部専門家としてお迎えすることができました。併せて、本校の卒業生を雇用していただいている株式会社コアの椎名志津子氏、株式会社タカシンの船木忠功氏、就労支援でお世話になっている津軽障害者就業・生活支援センター所長の長岡恵美子氏の3名の皆様を本校の就労支援アドバイザーにお願いいたしました。これまで何度も授業を見ていただき、将来の就労や社会自立へとつながるさまざまな視点から多くのご助言をいただきました。学習内容や学習の位置付けなどを児童生徒により分かりやすく伝えるための「見える化」、より活動をスムーズに進めるための進化するマニュアルづくり、「なぜ」「なんのために」その活動に取り組むのか、児童生徒に分かりやすく伝えて学ぶことの意義につなげることの必要性など、キャリア教育を進める上で大切なご助言をたくさんいただくことができました。このようなアドバイスを基に話し合い授業を改善していく作業をとおして、教職員の意識が変わり、組織としてキャリア教育に取り組む基礎ができたと感じております。本当に感謝申し上げます。

本校のキャリア教育の取り組みは始まったばかりです。今後、充実発展させるために、教職員一同、一層の努力をしていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

## 研 究 同 人

校 長            松 本 敏 治  
副 校 長        森 山        隆  
教 頭            成 田 安 男

小 学 部	中 学 部	高 等 部
葛 西 美紀子	木 村    薫	石 田 千 里
谷 地 美奈子	工 藤 美 聡	矢 口 智 洋
山 中 佐智子	磯 崎 みちる	笹 森 由美子
渡 邊 直 仁	鈴 木 匡 芳	白 藤    剛
天 野 優 美	山 本    歩	長 峰 伊公子
山 本 恵利子	相 馬    力	森 修 子
木 村    讓	奈良岡 恵美子	小田桐    敬
奈良岡 孝 信	佐 藤 忠 全	宮 本 美 穂
◎山口 由 美	齊 藤 陽 一	梁 川 道 輔
菊 地 純 子	淋 代 香 織	今 夏 希
		今 亜里沙

◎研究部主任

### 研 究 紀 要

#### 第 2 0 集

#### 働くための環境設定とシステム作成の試み

平成 2 6 年 1 月 発行

発 行    弘前大学教育学部附属特別支援学校

〒036-8174 青森県弘前市富野町 1-76

TEL 0172-36-5011    FAX 0172-36-5012